

研究所だより

1月、2月の研究所の主な行事としては、第2回常任理事会（1/18）と第3回基本研究会（1/18）、第4回基本研究会（2/22）を行っています。第3回基本研究会は、「福祉コミュニティ研究会（座長：鈴木勉）」と「社会的経済研究会（座長：中川雄一郎）」の共催で行なわれ、立命館大学の川口清史教授が「スエーデンの新しい協同組合」について報告されています。第4回基本研究会は、「協同集会」の第8分科会の成果を踏まえて、法政大学の平塚眞樹先生に「今日の青年たちにとっての、『学び』『働き』『生きる』こと——人間が成長を実感できる、仕事の場づくりと地域づくりの可能性」と題して報告して頂きました（本誌2頁）。

内容紹介は別項にゆずるとして、研究会のことに関して少し考えてみたいとおもいます。基本研究会の位置付けをめぐって前回の総会でも意見を頂きましたが、基本研究会は当面研究所が対象とする課題に沿って毎月1回公開する形で行なっていきます。具体的には「協同集会」で取組まれた各分科会での課題を更に深める研究会として企画されています。また、基本研究会の問題提起を受けて課題別研究会を協同運動の実践家を含めて発足させるつもりです。

既に第4回基本研究会で取組まれた「教育」に関するテーマを中心に「協同組合教育」に取組む研究会が労協の実践家と研究者の間で準備が始まりました。教育の重要性が常々叫ばれながら実践の舞台では必ずしも芳しい取組が行われていないのが現状です。農協や生協の教育に関る方々にも呼掛け、どう取組むのかという実践的な提言をまとめたいと思っています。各研究会への会員の皆さんの参加について広報活動が不足していたり、メンバーの人選についてルールの確立を望む意見が寄せられています。この点も次回総会にまでに方針を定めて行きたいと思います。当面はじまる課

題別研究会ではこの点を十分配慮して進めて行きます。

1月から全米退職者協会（AARP）の研究会が月1回のペースで行われています。6月に日本労働者協同組合連合会がAARPの調査を予定しているのに合わせて調査項目の整理と事前学習をかねて行われているものです。メンバーにはAARPに関心を寄せている民間企業の研究者も参加しています。

すでにご覧頂けたと思いますが、所報2月号を「協同集会」の報告集とさせて頂きました。執筆者の方々には短期間でまとめて頂き苦労をおかけ致しました。本当にありがとうございました。お蔭でまとまりのある報告集になったと思います。今後、各地域で取組まれる協同の取組に是非利用頂きたいと思います。

昨年（95年）度、センター事業団より委託されて取組んだ「良い仕事」の調査研究が、内山常任理事の奮闘でようやくまとまりました。若干在庫があります。研究資料としてご入り用でしたら研究所にお問い合わせ下さい。97年度も継続して行う予定ですが、センター事業団の業務の活性化につながるよう実践家を含めた調査研究会になる予定です。

新しい事務所に移転して2ヶ月が経過し、研究所らしい体裁も少しは整ってきたところです。会議室の利用もできますのでご利用予定の場合はご連絡下さい。

（坂林 哲雄）